

## 意見聴取のための試行の会 (2001.12.21 開催) 概要

### 1. 開催概要

(1) 日 時：2001年12月21(金) 14:00～16:15

(2) 場 所：ピアザ淡海 3F 大会議室

(3) 参加者：委員7名、一般傍聴者115名

### (4) 主な発言内容

参加された方の中から、発言を希望された17名全ての方を、前半9名、後半8名に分け発言頂いた。1人3分で受付順に発言いただいた後、前半・後半でそれぞれまとめて委員から質問を行った。最後に参加者全員より意見を募り、さらに2名の方より発言があった。

### ○はじめに (川那部部会長)

- ・ 淀川水系流域委員会および部会では、住民意見を聴取するだけでなく、反映の方法まで考えなくてはならないという認識をもって議論を進めている。
- ・ 皆さまに発言いただいたご意見の内容を部会の議論の参考とさせて頂くだけでなく、どのような聴取の方法があるのかを探ることも、本日の会の大事な目的である。聴取の方法についても意見を頂きたい。
- ・ 今回は住民のご意見、琵琶湖に関する問題、流域委員会への要望等を伺い、それについて委員から質問をさせて頂きたい。委員や部会に対する質問にはお答えしない。

### ○意見聴取

#### 1. 沿岸施設を“生活圏”にして欲しい

- ・ これからの社会資本整備はつくる時代から、使う時代と言われている。野洲川にも整備された人工河川の河川敷に公園ができているが、効果的に使われていない。沿川住民が魅力ある生活圏の一環として利用できるよう、管理、設営などを工夫して欲しい。
- ・ 地域住民と協力して、子供たちの環境教育の一環として親水の幅を広げて欲しい。

Q：「生活圏」の具体的なイメージを教えてください。

A：現在は、いくつか河川敷に公園のような広場があるが、余り利用されずゴミが放置されている。沿川住民みんなが楽しみ、平等に恩恵が受けられるよう計画して、設置場所や仕組みを考えて欲しい。

#### 2. 親水環境をつくって欲しい／上流の山林から地道に改善するべき (日本カヌー普及協会 藤田清)

- ・ カヌーに乗っていて感じるのは、この50年で環境破壊が進んだということである。

里山の手入れがされず、田圃では化学肥料を使用するなど生活そのものが変化してしまつた。100年位かけて、根気よく環境にやさしいやり方を定着させたい。

Q：カヌーを通して感じる川のよさを教えてください。

A：ふと耳を澄ますと、川の底の砂が流れている音が聞こえたりしたときに、大自然の懐深く潜り込んだという感動がこたえられない。

Q：木津川でのカヌーの搬入搬出箇所は何箇所くらいあるのか教えてください。

A：便利に使えるところは少なくなつてきている。上の道が駐車禁止や、橋ができて立入禁止になっていたりする。立入禁止の理由を書いた立て札等あれば、壊して入るような行為も減るのではないか。

### 3. 琵琶湖への農業の影響／ものづくりの視点必要

- ・ 農薬や化学肥料など農業の琵琶湖に与える影響を科学的に明らかにする必要がある。農業がコストや能率を優先する姿勢は環境に対して大きな問題である。
- ・ ものを作る側の企業の意見が反映されていない。環境に対して悪いイメージがあるが、様々な企業が努力している。

Q：琵琶湖の現状を見て、ものづくりをしている企業はこんなことを考えているということがあれば教えてください。

A：使った水を処理して排水するところまでを企業の責任としてやっている。日本の企業のこの技術はすばらしいものがある。豊富な琵琶湖の水を活かした事業がもっと生まれて欲しい。そのためにも企業側の意見も聴いて頂きたい。

### 4. 自然復元→自然創世の考え方をもつべき（海浜、ワンド等）

- ・ 琵琶湖の水質をこれ以上悪化させないための方策を考えてほしい。彦根の新海浜では砂が無くなり砂浜が崖になっている。これはダム建設、砂利採取など人間の責任である。環境回復のために我々自身の努力が必要である。
- ・ 自然復元というより、自然創世の発想で、生態系が遮断された今の河川の形を自然と融合させる方法があると思う。

Q：上流のダムの流量等、どのような状況なのか、またダムができて良かったことがあれば教えてください。

A：愛知川ダムは本来、利水ダムのため大雨が降ると一挙に放水するが、普段はほとんど河川に水が流れていない状況である。愛知川が天井川であったことを考えれば、治水上利点があったと思うが、ただ治水以上のことをやってしまったのだと思う。

### 5. 琵琶湖の影響には農業排水の問題が最重要

- ・ 琵琶湖をきれいにするためには、上流の河川からの農業排水の流入をなくすことが最重要である。農業生産者として、ほとんど汚れた水を流さない乾田不耕起直播栽培を行っている。この栽培方法を採用する農地を増やすことで、琵琶湖の水はきれいになると思う。
- ・ 化学肥料、農薬を普通栽培の半分という方法で、滋賀県が取り組む「環境こだわり農産物」の栽培に協力しているが、収量が落ちるため、あとに続く農家がない。食

味や質の良さをアピールして賛同者を増やしたい。

Q：自然農法を行っている従事者の数は増えているのか、仮に増えていないとしたらその理由は何なのか、また、外部の人間でも希望すればそのような農業に従事することは可能か教えて下さい。

A：現在、滋賀県で10名程度で増えていない。普通栽培に比べて、収穫量が2、3割落ちることと、農薬を減らすと雑草が生えること等がネックとなっている。農産物の質や味の良さをアピールする必要があるが、県自体が真剣に取り組んでいないように思う。

6. 川は本来氾濫原だ。施設に優先順位をつけよ

- ・ 川は太古の昔から、人間の営みの中で、人がつけかえ、つけかえしてきた人工的なものであることを認識するべきである。ある意味で原罪意識をもって事に当たらねばならないと思う。
- ・ 河川整備の施策について、並列的に羅列するのは何もしないに等しい。川の持つたくさんの機能を尊重し、両立できる技術、施策を考えながら、優先順位をつけることは必要である。

Q：本来の川のイメージと、淀川水系の将来あるべき姿を身近な河川であげられれば教えて下さい。

A：雨が森の樹幹から落ち、地下水になって海に至るまで全部が川であると考えている。川を拘束して現在の川ができあがったが、その状況の中でも川、地下水も含めて川には自然の営力が働いている。いろいろな機能があれば、相反するところもでてくる。コストや技術面で両立できない部分は、優先順位を頭において議論して頂きたい。

7. 委員会は治水の意識が低い。流れを良くして、安全度を確保せよ

- ・ 流域委員会の治水に対する意識の低さが心配である。現実に洪水氾濫が存在する以上、工事实施基本計画の安全度は確保して欲しい。人口の集中する大阪や京都などで早期に効果が発揮できる洪水対策や水害保険補償制度等を設けて欲しい。洪水調節ダムも含めて、堤防は人々の生命と健康、文化的な生活を守る砦である。

8. 川の流れをよくして災害おこすな、人の生命大切に

- ・ かつて、砂が豊富だった木津川は、砂利採取によって現在は砂のない川になり、川の中に立木の太木が生え、流れの悪い状態になっている。
- ・ 今や、木津川は魚を捕る川ではなくなってしまった。これからは人間の生命、財産を守るために流れをよくして、災害が起こらないことを主眼に考えてほしい。人間の生命を最優先で考えていくべきである。
- ・ 国土交通省に要望しても、自然保護団体の反対で工事が止まってしまう。直接それらの団体と話し合う用意もある。

Q：川の中の立木について、防災上の問題以外にも漁業への悪影響などもあるのか。

A：木津川は源流から山岳地帯を流れてくるため流木が多く、それが川の中の立

木にせき止められている。これでは堤防が決壊することは確実である。人間の命の重大さを言っている。

#### 9. 濁水・農業排水に対する基準・罰則設けよ

- ・ 姉川で漁業を営んでいる。丹生ダムなどの建設で、ダム本体の問題よりもそれに伴う道路建設等の影響で、ここ数年、川は濁り、琵琶湖の漁業者を苦しめている。水利用計画の中で、濁水基準の監視と違反に対する罰則制度を設けて欲しい。
- ・ 姉川では、農業用水のための頭首工の水利権が優先されているが、そこでとられた水が農業排水として琵琶湖へ大量の濁水、農薬、肥料を運んでいる。農業排水の問題は農業用水の取水から始まっている。

Q：農業排水の影響について、具体的な時期、現象、影響について教えて下さい。

A：4月下旬から5月半ばまで琵琶湖沿岸一体が泥水になる。昔ならアユ、エリ漁の最盛期だが、この間は漁も止まってしまう。ニコロブナも含めて沿岸部に1匹もいなくなるのが現状である。

Q：農業の土地改良区の組合や水資源開発公団と漁業協同組合との恒常的な話し合いはあるのか。あるとすれば、第三者が入ることもあるのか伺いたい。

A：話し合いの場が作られて2年ほどになる。それまでは、水利権を盾に問答無用という状態であった。9月の河川の濁水期と魚の産卵期が重なるが、この時期に一過性の大雨で流量が増えると産卵期のアユが川の中に入る。しかし、翌日には上流で農業用水として大量に取水されるため一度に減水し、アユの大量死が起こる場合も多い。滋賀県の行政機関、水産課も含めて話し合いをしているが、農業用水の権利は強く、厳しい状況である。

#### 10. 農家を応援して、排水減らせ（魚が湖岸に寄りつかない）

- ・ 10～15年くらい前から4月、5月に琵琶湖岸で産卵するフナ、モロコ類が減少している。漁業者としての経験から、農業排水が原因でこれらの魚が湖岸に寄りつかなくなっているのだと思う。先ほどの水を使わない乾田不耕起直播栽培を行っている農業者を資金面も含めて応援し、農業排水を減らして琵琶湖の水質をよくしていきたい。

Q：漁業、農業、林業の従事者がネットワークをつくってやっぴいこうという動きがあれば教えていただきたい。

A：漁業者は琵琶湖の水質に敏感だが、農業は大型化され、効率を重視しており、歩み寄りには至難の業である。行政などの仲立ちがあれば共に協力し、議論する場に参加する意志はある。

Q：漁業者の視点で、魚の反応で気づかれること、また、農業排水の影響について教えて下さい。

A：田植えの時期、姉川には水量が少ないところへ農業排水の水が流入してくる。川の水量全体の1/4から1/5が農業排水という状態になる。その時期に魚を川の網生けすにいられておくと、ほとんどの魚が死ぬ。魚が棲めない成分が入っている証拠

である。その水が琵琶湖にも流入し、飲料水となっている。農業排水の問題はもっと真剣に考慮されるべきである。

1 1. 沼づくり等で水をリサイクルし、湖への排水減らせ

- ・琵琶湖は滋賀県が預かる一番の宝物である。
- ・農業構造改善事業による用排水分離で、農業排水が琵琶湖にすべて流れ出るようになった。国の3割減反方式を利用して琵琶湖へ排水を流さず、沼をつくって反復利用するなど、水のリサイクルを考えてはどうか。
- ・安曇川のダムは40年前に計画されたものであり、その間河川整備も進み、ダムの必要性は薄れたのではないか。環境の悪化にもつながると思う。

Q：漁業者の視点から、魚の反応で気づかれること、また、農業排水の影響など教えてください。

A：安曇川では減反にもかかわらず、農業用水として頭首工すべてから大量の水が取水され、農業排水となってその一部が汚れて戻ってくる状況である。このような状況の中ではやなをしかけても、アユなどは川からすぐに琵琶湖に戻ってしまい減少している。ヤツメウナギなども同様の状況である。

1 2. 自然の水源（伏流水等）を復活させて／高水敷を公園に

- ・守山市は野洲川の沿岸にあたり、昔は伏流水の多い水源豊かな地域であった。しかし、30年代後半から骨材採取、野洲川改修による河床低下、地下水の汲み上げにより伏流水は完全に枯渇してしまい、ほとんど水の流れない川が多く出現している。治水のためだけの川でなく、利水の視点から豊かな野洲川を復元したい。

Q：天井川だった野洲川を、洪水を防ぐために平地河川化したことも、伏流水がなくなった一因と思うが、洪水を減らし、かつ伏流水を取り戻すような方法があり得るか伺いたい。

A：野洲川改修ができた頃は治水第一という世論や社会情勢があった。しかし、川には治水以外にも利水、地下水といった沿岸地域との関係も存在する。上流から導入管で下流に水を引くなどして、各集落で生態系のある小さな川をつくっていきたい。

1 3. 水需要を厳しく見直せ、琵琶湖は水位に余裕あるはず

- ・丹生ダムは、大阪府営水道と渇水時の緊急水補給という2つの利水目的をもって計画されている。しかし、大阪府の水需要は府自身によって横遣いが予測され、異常渇水時の水補給についても、平成6年の記録的な渇水時においても琵琶湖の水位が保証水位より70cmも余裕があった。このような利水目的が丹生ダムの有効貯水量の6割を占めることを考慮すると、不要なダムであることは明白である。

Q：丹生ダムは設置場所が滋賀県の北の端で、その水を使うのは大阪の方である。双方の住民同士での直接対話について、ご意見を伺いたい。

A：今まで上流と下流の住民の交流は余りなかったが、必要だと思っている。将来的にも大きく問題をとらえる必要があり、現在アプローチを試みているところである。

14. もっと上流に目を向け、自らの生活を見直せ（入浴剤等）

- ・ 野洲川上流の甲賀町に住んでいる。ゴルフ場、産業廃棄物処分場をかかえており、ゴルフ場、農業が使用する除草剤、殺虫剤など環境ホルモンに関して問題意識を持っている。これらの排水が完全に浄化処理されなければ、琵琶湖の汚染は防げないと思う。
- ・ 今年は農業の転作を30%実施するといわれている。水を汚さない不耕起農作による2、3割の収量の減収を転作と見なし、普及させる必要がある。
- ・ みんながもっと上流に目を向け、下流の住民も自らの生活を見直し、家庭排水として出る洗剤や入浴剤なども使用しないという方向に行くことで子孫の繁栄につながっていくと思う。各自の反省が必要である。

Q：甲賀町の排水などの現状について教えて頂きたい。

A：ゴルフ場の排水について調査しているが、はっきりしたデータがとれないでいる。ゴルフ場の敷地全体を回って疑わしい排水を調査するなどしてもらいたい。産業廃棄物処分場については処理水の汚染の検査値は低くなっている。敷地内の侵出水についても目で見える限りでは、濁りはましになってきているが、資金面などで詳しく調査することができないでいる。

15. 洪水・濁水の不安を除こう／水環境、地下水も大切に

- ・ 丹生ダム事業計画の治水に若干の不安を抱きながらも期待している。高月町は現在も濁水と洪水の被害に対する大きな不安を抱えた地域である。ダムで水量がコントロールされることで、洪水対策にもなり、そのための河川改修のコスト削減にもつながると期待している。同時に農業用水のくみ上げ等による余呉湖の水環境の悪化、農業排水による河川の汚濁、下水道の完備等の問題を抱えており、高時川にいつも水が流れることのメリットは大きいと思う。丹生ダム等で水量のシミュレーションをしっかりとって欲しい。

Q：丹生ダムの必要性について、同じ地域の住民はどのような意見が比較的多いのかを教えてください。

A：農業用水は下流の余呉湖の辺りでは絶対量が不足している。現在、余呉湖にポンプで琵琶湖の水を上げるなどしているが、経費面でも住民や農業経営者にとって大きな負担である。コントロールされた水が、常時川を流れていることが願いである。また、県でみずすまし事業が地元も負担をしながら実施されている。成果とともに、成果発表の方法にも注目している。

16. 天ヶ瀬ダムへの流木・ゴミを何とかしよう

- ・ 天ヶ瀬ダムの5km上流に住み、瀬田川を眺めて暮らしているが瀬田川は灰色の川になっている。ダム湖畔に柳やヨシ、セイタカアワダチソウが繁茂し、種が飛んだり、害虫、害鳥が住みつくなど付近の住民は困っている。また、南郷の洗堰が開放されると、捨てられたゴミが流れてきて、柳などに引っかかるような見苦しい状況である。地元の自治会も参加した、流域の環境改善のための方法や仕組みを考えていき

たいと思っている。

17. 水をゆっくり流し、護岸は自然に、大ダムの金を森林整備に

- ・ 水は自然にゆっくりと川下へ流すというのが、私の哲学である。また、全ての汚染は川に流れるということを特に言いたい。
- ・ 護岸の景観を考慮してほしい。柳や竹の自然の植物が生えた護岸を復活させたい。
- ・ 道路からの排水が汚れてきている。道路工事の関係者も一緒になって考えるべきである。
- ・ 風倒木による2次、3次災害を防ぐため人工林の整備が必要である。水質汚染を招く大きなダムは廃止し、その費用を森林開発へまわすべきである。
- ・ 道路の溝ぶたは便利な反面、太陽光線を遮断して水を汚してしまう問題がある。

Q：水をゆっくり流して欲しいというのを、もう少しわかりやすく説明して下さい。

A：今の河川工事は川を一種の樋にしている。蛇行していた川を直線にし、あふれていた水を護岸で封じ込める。昔の川はあふれば、周辺の竹藪等がゴミ、流木を止め、川の中のゴミは河川で浄化していた。竹林の有効性を考えて欲しい。また、木の根っこには必ず魚がいた。川に行けば、魚も蛇も鳥もいる自然を生かした川に還元しようというのが、ゆっくり流そうということである。

18. 内湖の役割（浄化力等）を見直し、提言を

- ・ 西の湖は内湖として非常に大切である。琵琶湖総合開発で琵琶湖自体が小さくなり、内湖も埋め立てて干拓し、保水性の低下とともに水の浄化能力も下がり、水環境が悪化してきた。内湖の役割を見直すべきである。

19. 環境・治水・利水をバランスよく／環境の目標を明示して

- ・ 治水・利水・環境のうち、環境についての指標や目標がない。有識者は環境の目標を明確に示すべきである。その上で3つをバランス良く計画をたてて実施して欲しい。

20. 川ではきれいな所の虫が減っている／33年放っておいた川上ダムを何故、今作るのか

- ・ 木津川上流の伊賀上野では第二名神高速道路等で、山がどんどん壊されていっている。山の獣たちが人里へおりてくるようになった。上野の工事事務所に「人間の道」をつくったら、「動物の道」もつくるよう要望しているところである。
- ・ 川の虫を調べているが、年々清流に棲む虫が減少している。50年、100年先を見た施策を考えてもらいたい。
- ・ 33年前に計画された川上ダムの建設が、今また動きだそうとしている。計画当時とは人口も含めて状況が変化している。現状を見据えてきちんと見直すことが必要である。

参加者全員に対しての質問

Q：早崎内湖が減反政策の一環ということで水を入れられたという話を聞いたが、そのことについてご意見があれば伺いたい。

A：早崎内湖にゴルフ場建設計画が反対運動で中止になった時点で、びわ町内の3漁業

協同組合が知事へもとの内湖へ戻してほしい旨の嘆願書を出して実現することになった。

A：試験段階なのではっきりしたことは言えないが、ないよりあった方がいいのは確実である。北湖に与える影響は非常に大きい。

○最後に（川那部部会長）

- ・ 淀川水系流域委員会には琵琶湖部会のほかに、淀川部会、猪名川部会がある。是非、地域にとらわれすぎず関連のあると思われること等、他の部会でもいろいろ発言をしていただきたい。
- ・ 漁業、農業、林業の方たちが、行政だけでなく、住民自らで何かつくれることがあるのではないかというお話があった。これは1つの提案であると思う。
- ・ 流域委員会、部会の委員間の議論では、河川が省庁の縦割り行政、あるいは県の諸事情により、ばらばらな状態ではいけないと認識している。国土交通省でも、いろいろな形で他の省庁とのコンタクトをとろうという姿勢である。その点で、必ずしも国土交通省に限定した話にならなかったことはありがたいことである。
- ・ 税金を使う国や県に具体的な施策を求めるのはもちろんのこと、住民側からも知恵を出していくことが、次の段階では是非必要であると思う。いろいろなご意見を出していただくようお願いしたい。



## 2. アンケート結果について

意見聴取の参考とするため、「意見聴取のための試行の会」で参加者にアンケート用紙を配布し、会についての意見を記入して頂いた。

①回答数：50名

### ②質問事項等

- i) 会に参加したきっかけ
- ii) 参加目的
- iii) 運営に関する意見
- iv) 琵琶湖及び周辺の川についてのご意見
- v) 今後の参加意向

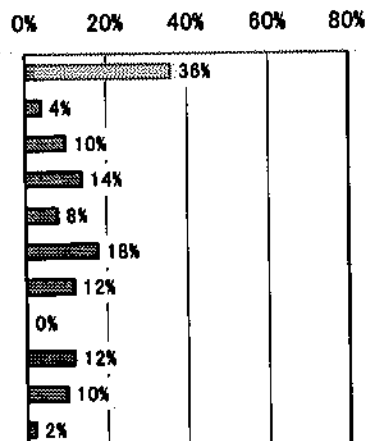
### ③結果の概要

次頁以降

琵琶湖部会 住民意見聴取の会に関するアンケート 集計結果

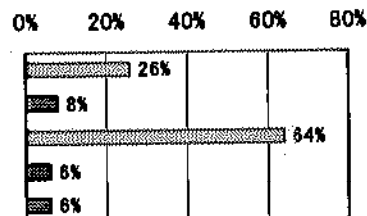
Q1. この会に参加頂いたきっかけ

項目	件数	構成比
1 黄色のチラシ(郵送)	18	36.0%
2 黄色のチラシ(郵送以外)	2	4.0%
3 青色のチラシ	5	10.0%
4 委員から案内された	7	14.0%
5 知人(委員以外)から案内された	4	8.0%
6 行政関係者から案内された	9	18.0%
7 新聞広告	6	12.0%
8 ラジオ	0	0.0%
9 ホームページ	6	12.0%
10 その他	5	10.0%
無回答	1	2.0%
回答者数	50	100.0%



Q2. 今回の参加目的

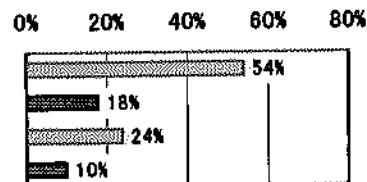
項目	件数	構成比
1 聞いてほしい意見があった	13	26.0%
2 委員に聞きたいことがあった	4	8.0%
3 どのような会なのか興味があった	32	64.0%
4 その他	3	6.0%
無回答	3	6.0%
回答者数	50	100.0%



Q3. 「意見聴取の会」運営に関する意見

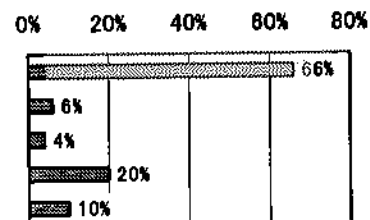
Q3-1. 実施する曜日と時間について

項目	件数	構成比
1 平日の昼間がいい	27	54.0%
2 平日の夜がいい	9	18.0%
3 土日がいい	12	24.0%
無回答	5	10.0%
回答者数	50	100.0%



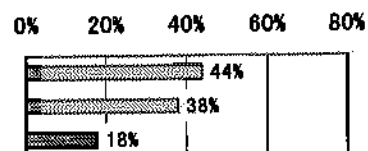
Q3-2. 実施場所について

項目	件数	構成比
1 大津周辺がいい	33	66.0%
2 湖西側がいい	3	6.0%
3 湖東側がいい	2	4.0%
4 その他	10	20.0%
無回答	5	10.0%
回答者数	50	100.0%



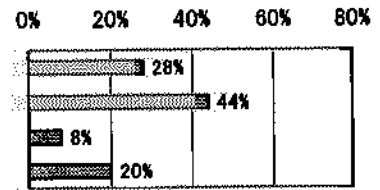
Q3-3. 参加者の発言時間について

項目	件数	構成比
1 充分である	22	44.0%
2 もっと長くしてほしい	19	38.0%
無回答	9	18.0%
回答者数	50	100.0%



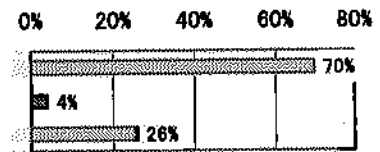
Q3-4. 今回の運営のやり方について

	項目	件数	構成比
1	満足している	14	28.0%
2	ふつう	22	44.0%
3	不満がある	4	8.0%
	無回答	10	20.0%
	回答者数	50	100.0%



Q5. 今後このような会がある場合、参加したいか

	項目	件数	構成比
1	是非参加したい(案内希望)	35	70.0%
2	参加したいと思わない	2	4.0%
	無回答	13	26.0%
	回答者数	50	100.0%



Q3-4 今回の運営のやり方について

番号	記述意見
1	代議士の先生や県、市の議員の方に多く聞いて頂いたらいいと思う。
2	基本的に発表者は最初は簡潔に意見を述べて、その後委員との対話形式でいいのでは
3	今回の試行は良かったと思う。もっと多くさんの一般の人からの意見を直接聞ける方法を今後きたいしています。
4	意見聴取の時間(今回は3分)を厳守してもらうために余鈴を鳴らしてもよいと思う。
5	公聴会方式がよいのではないかな。
6	現場での説明機会がとれたら、地域住民の意見を聴いてほしい(利水と河川とのふれあい)
7	①事前に発言要旨を提出を求めること。②複数意見の発表を許すこと。③複数回の発言を許すこと。④委員に対する質問を許すこと。
8	関係行政当局と膝づめで、要望、意見の会を開いてほしい。瀬田川流域のみの部会も行ってほしい。
9	円卓会議の形式
10	一般人同士もディスカッションすればいい。一つの意見が長い。
11	委員と聴取者との間をもっと近くするとよいのではないかな。えんたく会議の中に委員と聴取者が同じ席であるともっとおもしろい本音がでるのではないのでしょうか。
12	参加者が高齢の方が多すぎると思います。学生くらいの方たちの意見も集められる仕組みについて検討していただきたいです。
13	討議式の会(観点をしぼった形でないと深まらない)
14	琵琶湖流域に住んでいる人の意見をどの様にまとめていくのかたのしみ。
15	意見発言についてもう少し早く収集してまとめを出席者に事前に配布した方がよい。発言側が不慣れでもあり、ブツケ本番ではムリ。
16	今日の雰囲気はよかった。
17	次に言う人は前もって用意していたらと思う。
18	テーマをしぼって、委員ともどもで対話(討論)する総花的な内容も参考になるが、時には掘り下げた対話も計画してほしい。
19	話題提供の発言者を4~5人にしぼって討論することも考える要あり
20	1人3分間とてもいいことですが、女性の「時間です」が声が小さく分かりにくいのでベルor鐘にすればいいかがでしょうか。環境啓発アドバイザー(まだまだ勉強不足ですが)として今日の皆様の意見とてもいい勉強になりました。ありがとうございました。
21	今回の様な方法はまずはよいと思うが、 ・分科会形式にしたらもっと深くなる。 ・森林、農業、交通、ダム、生活、排水、河川工事、景観、遊水等。
22	時間的に短かった。
23	発言者の意見をまとめたり、足りないところを補ったり、わかりやすくかみくだいたりする、上手な司会者がいると良いのではないかな、というか必要ではないかな。

Q4 琵琶湖及び周辺の川について、意見聴取の会で言えなかったこと

番号	記述意見
1	自然を大切に！ということでは理解できるが、物ごとには優先順位があると思う。まず第一に命を守ることであり、第2に自然環境を保全することである。この委員会のメンバーはあまりに自然環境保全に傾きすぎると思う。
2	(自家井戸) 含 野洲川の伏流水を利用しているの上流の河川への汚水の流入について詳しく調べてほしい。(守山市上水道取水口の東堤にあたる地区) (地下水の流水経路は素人には見えないので、専門家の意見が聞きたい)
3	子供に川遊びをさせてやりたい。河童が出て来る様な河になればいいと思います。川で魚取り、キャンプ、はんごうすいさん等が出来る様に
4	利害の相反するものごとは多々ありますが、一方の意見だけそちらの声が大きいことにより聞くことになり、もう一方の声が聞こえてこない、無視するということのないよう、サイレントマジョリティーの問題を解消されるよう、住民意見の聴取には工夫をしていただきたい。
5	川づくりに望むこと ①治水対策、②川の歴史・文化の継承、③自然環境の保全・再生、④川を生かした空間利用、⑤清流の復活、⑥川と地域住民の関係の構築 特に④⑥を整備計画の骨子にされるよう提言したい。
6	高水敷(河川改修された)は、沿岸住民の親水空間で有って欲しい。河に背をむけるより、河川人が寄っていく河川で有って欲しい。沿岸住民のコミュニティー場、イベントの場となるよう、沿岸住民の河川公園は積極的に導入して欲しい。
7	・森林の機能、森林の保全問題を取り上げたかった。林業をいかにすれば成立するか。 ・陸上の廃棄物はすべて河川に流入する。河川は汚染に対しては弱者である。 ・「自然」の語は多様な意義を含む語である。T.P.O.によって自在に都合よく使われている。各委員、及び発言者は「自然」「環境」なる語を使う時、いかなる意味で使っているか認識を問う。ある学者によると、人間のanimalとしての寿命は27才であり、「自然」の状態とはヒトの平均寿命が27才の状態を言う。
8	滋賀県に移り住んできましたので、各々の地域のことをあまりよくは知らない事もありますが、住んでおられる場所、職業は違っても、皆琵琶湖の事や環境について一生懸命な事がわかってすごうれしかったです。特に次世代に良い環境をおくりたい、子どもの環境教育の大切さなどが共通していると思いました。皆異なる所で住んでいる人が意見を出し合えてよかったです。
9	農業悪者論が多かったが、健全な人間生活を維持していく上できけんなベクトルである。
10	委員の皆様が思っているより荒れている。びわ湖、淀川水系で遊ぶ人をもっと増加させたい。
11	市民から見てわかりやすい情報公開(データ)の方法というのは、どういったものなのでしょうか？琵琶湖は大きく、たくさんのデータを昔からとられており、公開されていると思いますが、市民から見てという視点での公開はされていないと思います。
12	河川の治水が大切である。一方利水の面も大切である。地域の住民がもっと河川に親しめるように公園等の施設が必要であると思えます。地域の住民にもっと開放すべきであると思えます。人と河川とのかかわり。昔から人は河川とのかかわりの中でくらしてきました。河川と人の共生すべきです。治水も大切であるが、利水にも力を入れてほしい。
13	瀬田川の左岸(唐橋～新緑苑団地・夕照道)は堤と川の間には草木樹林があり、なかなか美しい景観です。近くに雁も来ており、彼等に申し訳ない気持ちです。残念なことに、ここにゴミが不法投棄され、目に余るので先日回収しました。大袋にして30個ほど。カン、ビン、ペットボトル、紙オムツ、プイ、クツ、ナベ、ヘルメット、なんでもありです。ゴミ投棄を防止する方法はないものか？
14	琵琶湖に流れている川の源流はそのまま飲める様な美しい水なのに下流は汚れている。昔はもっと水を大切にしていた親子三世代で川の調査やみぞの調査をしていますが、このようにおじいさんやおばあさんの生活等、水の大切さを引き継いでいかなければなりません。住民全体に水の大切を中広くPRしなければなりません。少しの心掛けでいいのです。生活排水、農業排水を考え直さなければなりません。あまりにも身勝手です。
15	ダムは治水と言われているが、現実には下でほしい時、流してくれなくて、大雨が降る時に下へ流すからよけい下流で増水してしてしまうことになっている。雨水利用を、もっと天水桶のように利用する時期かと思う。
16	・冬期、特に2～3月の湖上荒天期に+30cmは、湖岸を荒廃させている。湖上気象を加味した管理をしてほしい。 ・ダムには寿命があることも考えた取り組みを、造ったダムは必ず次世代に負担を荷すことになることも考慮を。
17	心の啓発が重要(自分の生活環境を守る活動に参加)官がすべてを対処してくれるのではなく、管理者とともに参加し、自分達の生活環境(治水・利水・環境)を自らが守ることが重要である。管理者と住民がともに考え、ともに行動
18	西ノ湖の内湖の役割。内湖の保水性、水の浄化作用、湖底まで、空気(酸素)が入って行く流れを作るようになる役割。津田内湖の水入れもやるべきである。浅瀬の役割も大きい。自然は自然であって人間があまりかかわりを少なくすべきであります。
19	利水、治水、環境水のあり方で、今後は環境が重要だ(利、治の方が優先された)・モデル河川をぜひ造ってほしい。当然流域の景観や、里山の整備、原生林の保護など含めた、広域の都市、町、村づくりとして考える。
20	食糧増産のために干拓→余ったから休耕田、目まぐるしい政策の変換にあきれる。(余った米はアフリカの難民にだまって送ればよい)そのためにもどれだけ環境破壊が進んだかをよく考えてみてほしい。100年先200年先、いや1000年先を考えてほしい。
21	美しい風景を作っていってほしい。
22	初参加しましたので今回はカット。

Q6 淀川水系流域委員会の運営に関する意見

番号	記述意見
1	琵琶湖部会では琵琶湖の話ばかりで河川の話がほとんどされていないが、この意見を聞く会で述べられた意見が河川や水系の話がよく出てきて、本来の部会としてあるべき姿に近い議論がなされたように思います。
2	本日時間、場所、職業etc.の制限の為、来られなかった人もいると思われるので、それらの意見も聞くことも必要と思われます。(ex.学校へ出かけるetc.)
3	休憩時間をもう少し増やして欲しい。発表時間が短いと思う。
4	名札を忘れないで欲しい！ 参加リストにあるのに名札が作ってなかった！
5	JR沿線に近い場所を選んで欲しい。
6	・委員会は定まった期限内に結論を出さねばならないのは理解できる。然し、先を急ぐために自由な討論が制約されるのは好ましくない。Floorists(一般傍聴者)は誤解に基づく意見が見られる。Floorists間の意見交換も必要ではないか。事前に発言要旨の提出があれば誤解を事前に調整されるのではないか。 ・委員に対する質問も許してほしい。委員相互の討論はお互い遠慮が多そうだ。
7	ボトムアップ形式に徹してほしい。琵琶湖の貝類に環境ホルモンの影響が出て減少している如く実感しています。先日アワビ貝の精巢の退化が報道されました。びわ湖の貝の生殖器も調べて欲しい。
8	一般？陳情になってる気が！へた！
9	委員会ニュースNO.5の中の今後の委員会の進め方についての中で、整備計画が策定されるまでは新規の事業は行わないとされ、13年度実施予定事業が記載されているが、12年度から事前協議を進め、地元と協議を進め、地元と協議をしているものは、当然に13年度実施予定事業と考える。委員会には許可権がないとの部会長の答えであったが、規制していることと同じことではないのか。
10	本日も、漁業関係、エコライフ、カヌーで遊ぶ会、元建設省、企業の方々などなど、各分野の方の話、意見が聞かせてもらえて大変参考になった。今後も聞かせて欲しい。
11	良い意見を聞かせていただきました。参考にして今後の活動に生かして行きたいと思う。出来たら記録(意見・質問)が送ってほしい。
12	上流から見えていく会を作ったらと思う。大雨に乗じてためていた汚水を流す人もある。
13	今回の意見聴取の試みはよかったと思います。(場所をかえて実施されては)
14	一般参加者が発言者及び委員に対する質問、意見をいう時間をなんとかならないか。場所は木津、笠置、上野等をまわってほしい。
15	・川の日、水の日などを設けて、イベントを組む。 ・工事関係者の意見も聞かないと。 ・2ヶ月に1回ぐらいの分科会なりを計画しては。及いは地域ごと。 ・道路からの排水が問題だ。道路関係者の意見は？
16	意見を聴取したら、それがどのように反映されたか、または反映されなかったかを明らかにすると良いと思う。反映されなかった意見を述べた者にとって、反映されなかったことは、無視されたかのように感じるものだと思う。
17	「若者の意見が聞けない」ということは「変」と思う。大学生を参加させてはいいかがか？

## 琵琶湖部会 住民意見聴取の会に関するアンケート

本日は、お忙しい中、「淀川水系流域委員会 琵琶湖部会 住民意見聴取の試行のための会」にご参加いただきありがとうございました。今後の委員会運営、ご意見聴取の参考にさせていただきたく存じますので、お手数ですが以下のアンケートにご協力ください。ご記入後は、受付に設置しております回収ボックスにご投函ください。

Q 1. この会に参加いただいたきっかけを以下から選んでください（複数回答可）

- 黄色のチラシ（郵送）  黄色のチラシ（郵送以外）  
 青色のチラシ  委員から案内された  
 知人（委員以外）から案内された  行政関係者から案内された  
 新聞広告（朝日 読売 産経 日経 毎日 京都 中日 伊勢 奈良 大阪 神戸）  
 ラジオ  ホームページ  
 その他（ ）

Q 2. 今回の参加目的を以下から選んでください。（複数回答可）

- 聞いてほしい意見があった  委員に聞きたいことがあった  
 どのような会なのか興味があった  その他（ ）

Q 3. 「意見聴取の会」の運営に関するご意見を以下から選んでください。

3-1. 実施する曜日と時間について

- 平日の昼間がいい  平日の夜がいい  土日がいい

3-2. 実施場所について

- 大津周辺がいい  湖西側がいい  湖東側がいい  その他（ ）

3-3. 参加者の発言時間について

- 充分である  もっと長くしてほしい

もっと長くしてほしいと答えられた方にお尋ねします。どのくらいの時間が適切だと思いですか。

（ ）時間くらい

3-4. 今回の運営のやり方について

- 満足している  ふつう  不満がある

流域委員会では、このような会を通してできるだけ多くの方に意見をお伺いしたいと考えています。意見を言いやすくするための運営方法について、具体的なアイデアがあればお聞かせください。

（例）スタンドマイクを使って話す、委員の席と一般席を近づけて対話形式にする、等

-----  
-----  
-----

Q 4. 琵琶湖および周辺の川について、本日の「意見聴取の試行のための会」で言えなかったこと(言い足りなかったこと)があれば、お聞かせください。

-----  
-----  
-----  
-----

Q 5. 流域委員会では、琵琶湖部会を始め、他の部会(淀川部会、猪名川部会)でもこのような意見を聴く会の実施を予定しています。今後このような会があった場合、参加したいと思われませんか。

是非参加したい(案内希望)       参加したいと思わない

Q 6. 淀川水系流域委員会の運営に関するご意見があれば何でもお書きください。  
(運営方法、場所、日時、参加者の募集方法など何でも)

-----  
-----  
-----  
-----

差しつかえなければ以下にご記入ください。

お名前 (      ) 年 齢 (      才)

ご住所 (〒      )

電話番号 (      -      -      )

会社・団体名 (      ) E-Mail (      @ )

ご協力ありがとうございました。本アンケートの結果は、今後の委員会・部会の運営に活用させていただきます。